

第5回(仮)宇治市未来につなぐ都市づくりプラン検討委員会 会議録

<開催概要>

日時：令和5年10月16日(月) 午後3時から午後5時まで

場所：宇治産業会館多目的ホール

<出席者>

会長 川池 健司

副会長 大庭 哲治

委員 多々納 裕一・杉本 一久・藤田 佳也・長谷川 理生也・玉置 栄・井上 貴之

事務局 齊藤 裕二(技監)・伊藤 樹(理事)

米田 晃之(都市整備部長)・藤井 康博(都市整備部副部長)

中本 洋(都市計画課長)・森田 宏紀(都市計画課副課長兼都市計画係長)

岩田 知浩(都市計画課主査)・藤田 麻侑子(都市計画課主任)

<傍聴者数>

3名

<会議次第>

1. 宇治市未来につなぐ都市づくりプラン(素案)について

2. 評価指標と目標値及び評価方法について

(会議資料) 素案 宇治市未来につなぐ都市づくりプラン(素案)

概要版 宇治市未来につなぐ都市づくりプラン(素案)の概要について

参考資料 評価指標と目標値及び評価方法について

<会議概要>

《1. 宇治市未来につなぐ都市づくりプラン(素案)について》

京都大学防災研究所 教授 川池 健司氏 (以下、「川池会長」)	・ 次第1「宇治市未来につなぐ都市づくりプラン(素案)について」事務局から説明を。
事務局	・ <資料説明>
川池会長	・ 事務局の説明について、ご意見・ご質問等があれば。
社会福祉法人 宇治市社会福祉協議会 常務理事 藤田佳也氏 (以下、「藤田委員」)	・ 6ページの『将来都市構造の基本的な考え方』の、(2)のJR奈良線の所に、令和5年春複線化供用予定と書いてあるが、既に供用済みだと思う。 ・ 53ページの誘導施設の定義の所で、地域交流施設と観光センターの所に、都市再生整備計画事業の交付対象となるものという記述があるが、どのようなことを示すのか。 ・ 39ページの『安全・安心な環境づくり』の誘導する都市活動のイメージの二つ目の点に、『みんなが住んでいる』とあり、突然『みんな』

	<p>という記述は少し違和感があるので、これは不要なのではないか。また、同じページの最後の、『まちなかで気軽にカーシェアが』という所だけ、『整ってきた』と書いてあり、他の語尾は『いる』となっているので、ここも『整っている』でよいのではないか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JR 奈良線の供用済みの件や、39 ページのご指摘いただいた部分については、ご指摘のとおり修正する。</li> <li>• 53 ページの誘導施設の定義の中の、地域交流施設あるいは観光センターの所で、都市再生整備計画事業の交付対象となるものと書いてある部分については、今後、宇治市において、面的な都市整備も考えていく中で、施設を定義していかなければ、国からの補助金等の交付対象にならないということが交付要件に書かれているため、この地域交流施設あるいは観光センターなどが、そうした交付対象となり得る施設と考え、その要件を満たす施設について定義に記載した。</li> <li>• 地域交流施設については市交流センターやコミュニティーセンターのような地域の方々が交流する施設を想定している。</li> </ul>
宇治市民間保育連盟 会長 杉本 一久氏 (以下、「杉本委員」)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 誘導施設の中に子育て支援拠点があり、各地域に既にあるので、それを活用することについては承知します。ただし機能的なものや、切れ目のない子育て支援の連続性といったときに、何ともチープな印象が否めない。近くにある他の子育て支援施設等との連携があるという前提があつての拠点ということにしなければ、恐らく機能は十分に果たせないだろうという心配がある。</li> <li>• 宇治の民間保育連盟では園長会議があり、保育支援課もそこに参画し、毎月のように会議をしています。そこでは防災に対する、特に浸水被害に対することなどは、本当に頻繁に議論になるテーマであり、特に、槇島地域にある園はこのことを本当に心配しているので、ソフト的なことだが、現状との乖離がないよう進めていってほしい。</li> <li>• 子どもにとって豊かな環境というものは、歴史的に、伝統的にあるという側面だけではなく、今後、未来にわたって利用可能性がどの程度あるのか、子どもがどのように活用できるのかが非常に大事。子どもが創造的な想像力を発揮するのは、自分たちがその環境に住まわせてもらいながら、自分たちが関わるからこそである。ところが観光のことだけでいうと、以前は使えていたものが使えなくなっていたり、反対に子どもにとって利用可能性がしぼんでしまっていたりするものがたくさんある。今後、空き地などが増えてくるのだとしたら、そうした所を子どもが活用できる環境の提供なども、視野に入れてもらえればありがたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 誘導施設の定義については、ご意見のとおり地域の他にある施設との連携を前提とする。例えば施設の定義等で、そうした文言を入れられないか検討する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浸水区域における懸念についてのご指摘に関しては、先ほど見ていただいたとおり、例えば 23 ページの 1000 年に 1 度の宇治川・木津川浸水想定区域は、説明したとおり、24 ページの 150 年に 1 度の浸水深をもとに居住のエリア等を検討した。懸念されているのは、恐らく 27 ページの内水に関することだと思う。こうした所は、短期的なゲリラ豪雨等で浸水の実績があるが、居住誘導エリアに含むと整理している。市では内水被害に対する対策として、貯留施設の整備を順次、進めており、後ほどご説明する評価指標の中でも、そうした要素は入れながら整理をしていこうと考えている。</li> </ul>
宇治商工会議所 専務理事 長谷川 理生也氏 (以下「長谷川委員」)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誘導すべき都市機能として、例えばミュージアム・観光センターという表記がされていますが、「茶づな」はあれだけ大きな施設なので、記載してもよいのではないかと感じました。</li> <li>・ 都市機能の誘導エリアの市内全域の地図で、居住誘導区域と都市機能誘導区域が 54 ページに示されている。用途を図示しているのは、専門家の方が見れば非常によく分かると思いますが、一般の市民が見たときに情報が多過ぎるのではないかと感じました。都市機能誘導区域、居住誘導区域というように、簡単に二つだけ記載したほうが、一般市民にとっては分かりやすいのではないかと感じました。</li> <li>・ 54 ページの図と、防災指針の各図の、居住誘導区域や都市機能誘導区域の色分けが全然違うので、同じような色で記載したほうが、より分かりやすいので検討してはどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光施設については、観光センター以外にもミュージアムや資料館などを含んで整理をしている。</li> <li>・ 居住誘導区域と都市機能誘導区域の色分けで、居住誘導区域が青で、都市機能が赤となっているが、見やすさを考慮して統一できないか検討する。</li> </ul>
京都大学防災研究所 教授 多々納 裕一氏 (以下、「多々納委員」)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 45 ページに、『都市機能誘導区域とは、居住誘導区域内に設定するものであり』という説明があるが、宇治市の場合は宇治エリアで自然公園の区域を外したので、居住誘導区域には含まれない都市機能誘導区域がある。例外があるということをごどこかに記述しておかなければ、後の話が分かりにくくなるのではないかと感じました。</li> <li>・ 宇治市の大学といえば京都文教大学があるが、どこにも出てこないのはなぜか。工業地域にあるのか。もし書けるなら、書いておくほうがよいと思った。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 45 ページには、都市機能誘導区域の一般的な考え方をまとめて記載しており、指摘された内容については 53 ページの一番下の⑤誘導区</li> </ul>

	<p>域の設定の中で、本市独自の宇治橋上流景観区域の設定について、居住誘導区域には含めない地域だが、都市機能誘導区域に含めていると記載し、整理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 宇治市においては京都大学と京都文教大学という二つの大学があり、本来なら両方の大学を位置付けていきたいと考えたが、マスタープランにおいて、槇島地域は他の拠点と少し色合いの違うエリアということで、ものづくり産業拠点という位置付けにしている。</li> <li>• また、この都市機能誘導区域においても、拠点の中心となる駅中心から1キロ圏内で設定していると考えており、槇島地域にはその中心となる駅がないため、誘導施設には位置付けない整理をしている。</li> </ul>
<p>国土交通省 近畿地方整備局 建政部 都市整備課長 玉置 栄氏 (以下、「玉置委員」)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 52 ページに各拠点の誘導施設という表があり、一方で、38 ページや39 ページのプランの所で、基本的な方針というものがある。こちらの基本的な方針と、誘導施設に書いている考え方を明確に分かるようにしてほしい。</li> <li>• 90 ページ、91 ページに誘導施策というものがあり、こちらも誘導施設について、具体的な施設のイメージをあげても良いのではないかと検討してほしい。</li> <li>• 86 ページの防災の具体的な取り組みの所で、実施時期の表記が難しいかとは思いますが、下の※で実施時期が、おおむね5年程度や、中期、長期とある。ハード施策は結構時間がかかるが、ソフト施策は随時取り組まなければならなかったり、ハードが整備できれば、またハザードマップや危険な所が変わったりするので、ソフト施策については恐らく随時、見直していかなければならない性格のものだと思う。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 誘導施設あるいは誘導施策等がうまく紐付いているかという点については、そうした目線で再度点検し、修正できるところは修正する。</li> <li>• 86 ページの防災指針の中のソフト施策は随時取り組んでいくものだという点については、ご指摘のとおり防災の取り組みに終わりはなく、随時進めていくものだと考えている。表の書き方として、下の※に、長期についてはおおむね20年、かっこ書きで継続実施と書いており、随時取り組んでいくものについては長期という位置付けで記載していたが、指摘されたように随時取り組んでいくものが分かるように整理し、分かりやすく伝えられるように検討する。</li> </ul>
<p>京都大学 経営管理研究部准教授 大庭 哲治氏 (以下、「大庭副会長」)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第5章『誘導施設及び都市機能誘導区域』に関して、記載内容に関して特に異論は持っていないが、今回の議論の中で、都市機能誘導区域に関し、基本的には誘導すると記載して、議論もされてきた。ただし書きで、誘導といっても維持や確保ということも書かれていて、それに対しては賛成する。</li> <li>• 一方で45 ページ、先ほど多々納先生の質問の中でも触れていたように、都市機能誘導区域とはという一般論が書かれていて、拠点を誘導</li> </ul>

	<p>し集約するとあるが、集約ということに関しては、今回は特段、議論していないように思いますし、基本的には全て、新しいものをどんどん誘導する、維持するという話で、何かを諦める、何かをまとめるということに関しては、何も議論していないのではないかと思います。その辺りについて、事務局としてはどのような考えか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ご指摘のとおり、誘導施策について、維持していくことを含めて議論していただいたと思っていますが、確かに、何かを統合する、集約するという点よりは、新たなものを誘導するなり維持していくという点に主眼を置いて議論していただいたと思っているので、この表現については『誘導し維持する』とするなど工夫をする。</li> <li>• 集約する等については、特に公共施設が集約の対象になると思っている。本プランにおいては、公共施設を維持できるようなエリアの検討がメインだと考えている。施設の統廃合については、宇治市公共施設アセットマネジメント推進計画等、別の所管の計画があり、基本的にはそうしたもののうちで議論されていく内容と考えている。それを本プランの中にも盛り込んでいこうと考えているので、本プランで施設を統廃合していくところまで踏み込んで議論するものではないと考えている。従って、あくまでアセット等の別の所管の計画で設定された内容を本プランにも盛り込んでいきたいと考えている。</li> </ul>
大庭副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 統廃合だけではないと思っている。例えば居住誘導区域の中で、この都市機能誘導区域ではないエリアでスーパーの立地がなかなか難しいなど、今後ニーズがどんどん下がっていき、維持することが難しいのではないかとこのエリアに関しては、都市機能誘導区域にしっかりとスーパーを確保し利便性を高め、そこに拠点性を持たせる、集約化するというような考え方もあるのではないかと考えた。その意味では、現在あるものを統廃合するという考え方も一つあるかもしれないが、将来20年を見据え、何か今後のリスクを軽減できるようなものを拠点に整備しておくなど、そうした考え方を盛り込むことができればよいのではないかと。現在すぐに集約化するというだけではないと思いますし、将来のさまざまなことに対し、維持、確保と似たようなことかもしれないが、そうした観点からも検討したり、あるいは何か追加できる文言があれば、入れたりするとよいかもしれない。</li> </ul>
多々納委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今の大庭先生の話は根幹に関わる部分です。立地適正計画そのままの精神の話だと思うので、そこは確認しておいたほうがよい。統廃合しましょうと言っているわけではありませんが、少なくとも都市機能誘導区域に指定している所に、仮にこれらの機能が集積したとしても、その他の居住誘導区域に住んでいる方にとって、影響が大きくなるような施策と一緒に付いているという話になっておかなければならない。公共交通ネットワークや、あるいはバスなど他の手段で補完</li> </ul>

	<p>できるよう考え、将来的には都市機能の集約も可能なまちづくりを今ここで考えるということだと思ふ。その辺りの考え方をどこかに書いておくとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現状は、維持できればよいと思うかもしれませんが、将来に向けたこの形に持っていくことにより、仮に都市の人口が随分減っていったとしても、何とか生活の質を落とさないで済むようにしていけます。そのためのビジョンなので、その辺りについては少し補完するとよいのではないかと。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>47 ページをご覧ください。一番下は公共施設で、次のページに、民間施設の誘導施設の設定の考え方をまとめています。一定、人口減少社会の中で、選択と集中による効果的・効率的な行政運営が求められているという所、また、個別の計画などで、その整備の方向性が示されているものを対象に誘導施設を定めるという所と、その後には、主として既存の都市機能の維持、充実を図るものを対象にして誘導施設を定めると書いている。これは全て、多々納先生のご指摘の点に合致するののかという問題はあるので、こうした所にもう一つ文言を加えるなどして、考え方の整理をできればと思うので検討する。</li> </ul>
川池会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>42 ページの※4 に、浸水想定区域についての考え方が記載されている。この垂直避難という言葉が、この文を読むと混乱するのではないかと印象を持ちました。垂直避難というと、水平避難をしようとしたけれども既に浸水が始まっていて、水平避難をするとより危険だというときに、上の階に緊急的に避難する、あるいは広域的に避難対象者が多過ぎる場合に、高層階を持っている建物に住んでいる人たちが、一時的にその難を逃れるために上の階に避難する場合をイメージすると思う。しかし、ここで書かれている垂直避難は、浸水したけれども、避難所において上の階が使用可能だという意味合いで使われているように思う。これを読んだときに、混乱を招きかねないと懸念したので、どのような避難を考えているかということを少し検討してはどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>まずその区域から逃げてもらうということが前提にあった上での垂直避難と考えているが、もう少し丁寧に、ご意見を踏まえて整理する。</li> </ul>
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇治市は市内にターミナルが 14 あり、公共交通に非常に恵まれた地域です。他の市のように、例えば単一の大きなターミナルがあり、そこから同心円状に広がっていくような成り立ちではないまちです。近鉄をはじめ京阪などの駅があり、そこから開発が進んできた。現在、高齢化、少子化になってきて、単純にコンパクトシティとはいえないまちでどのような都市づくりをしていくのかということが、このプランの根幹に関わると思う。</li> <li>例えば、極端なことを言えば、近鉄がなくなったり、京阪の駅が一つ</li> </ul>

	<p>なくなったり、非常にインパクトのあることがない限りは、現在の規模をどう維持しながら市民の生活の利便性を確保していくのかという点に、どうしても視点がいかざるを得ないまちの仕組みになっている。本日の説明の冒頭でも、そうしたことを含めてプランを作っているという説明はあったが、それをどこまで記述するか。言い過ぎても良くないし、全く書かないということも難しく、その辺りは本当に自分の感覚として、非常に頭を使うところだと思う。そうした、このプランの思想や考え方のような部分はもう少し考えられてもよいのではないか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在のまちの成り立ちや、人口は減っているものの世帯数はあまり減っていないという現状、また、人口密度が依然、現段階では高い状況にあるという点を踏まえ、どのように変えていくのかということは、最初から工夫が必要だと考えていた。</li> <li>104 ページをご覧ください。この計画は 20 年スパンと考えていますが、議論していただいたとおり、時代の変化が非常に大きい社会の中で現在できることは、予測、見立てだけだと考えている。ただし評価指標のところの説明はするが、20 年というスパンで考えたときに、現在、想像しているような内容が今後どう変化していくのかを予測しながら、まちづくりもどんどん更新されて進んでいきます。基本的な理念としては、計画の実施と検証をしながら改善し、例えば 5 年、6 年の短いスパンで評価をする段階で、そのときの見立てが合っているのかということについては注意して見て、評価をしながらこのプランは進んでいくべきものだとして位置付けている。従って、マスタープランのこの図をもって進めていきたいと考えている。</li> </ul>
川池会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>他に意見はないか。</li> </ul>
	《意見特に無し》

《2. 評価指標と目標値及び評価方法について》

川池会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>次第 2 の「評価指標と目標値及び評価方法について」を事務局から説明を。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈資料説明〉</li> </ul>
川池会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局の説明について、ご意見・ご質問等があれば。</li> </ul>
杉本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口密度はトータルの他にも、例えば性別、年代などで評価をするのか。乗降客数なども全て、若い人たちや子どもたちというような形で評価ができるようになるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状は、総数での評価と考えている。しかし、その内訳等については評価の際に一定、確認は必要かと思っているので、実際にどのようなデータが取れるかということも含め、確認したいと考えている。</li> </ul>

<p>多々納委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 随分、頑張って指標をつくろうとしているのでしようけれども、これはKPI 的表現です。しかし、ロジックがどこにあるかが重要で、今の質問もそうだが、ロジックモデルが最終的なアウトカムに向かい、ここで測ろうと思っている指標はどの辺りの指標かということと、本当にアウトカムは測らなくても大丈夫かという議論の両方があると思う。</li> <li>• インプットがどうなったかということも、本当は要るのではないかという問題など色々ある。そう考えると、考えても分からないということがある。なぜかという、将来の構造は分からないので、それに資する指標かどうかは分かりません。ただし、現在考えている、駅周辺のぎわいや、あるいは若年層が残ってほしいということ、まちの活力を維持していきたいということなどを、仮に上位の目標として置いているのであれば、本当に若年層の定住意向は聞かざるを得ない。あるいは転出率を出すなど、逆にそうしたことをしなければならぬ。</li> <li>• それらと今の施策がどうつながるかという流れがあるものが、ロジックモデルという。これは行政でよく使われるので、よく分かっていると思う。しかし、そうしたところを並べていき、これが現在、自分たちが考えている構造ですというものが、これを仮置きするというのが、104 ページのマスタープランの考え方である。現在、考えている仮説はこうだというものになっていて、それを、こうしたデータを使って考えてみるとおかしかったということや、もっと大事なものが分かるのではないかと考えている。現在の見立てがロジックモデルに書かれていて、それをチェックするためにこうしたデータを取りますとしてほしい。</li> <li>• 今調べてみると昭和 47 年に宇治市は市政モニターを採用したようだが、市民の方の参画があればと思う。市民参画といっても、計画づくりのために集まってワークショップに出るだけが参画ではなく、例えばアンケートに答えてもらうような参画もありますし、良い、悪いという意見を言ってもらおうということがあってもよいと思う。ランダムにでも構わないのでそうしたものを集め、目標に対してどのような意見があったかということは、生の声でなければ分かりにくいかもしれない。そうしたものを含めて考えていただきたい。単純に 1 段階を調べたら全て分かるというような指標を提案しようと思っているのでしようけれども、もう少し重層的にした上でこうだということを測ろうという、もう 1 段階入ると、下の図との関係が分かりやすくなるのではないか。</li> <li>• 私は防災が専門なので思うのだが、例えばここにある、自主防災組織の組織率だけ測ったら何が起きるかという、何もしていない組織がたくさん存在する結果になる。ベトナム戦争のときに何人の兵士を殺</li> </ul>
--------------	--



	<p>せばよいかと計算し、マクナマラが失敗したというような話が始まる。そのような話をしても仕方がない。むしろそれよりは、本当に社会防災力の指数のようなもので、それぞれ必要なものを多面的に見ると、さまざまな方法があると思う。この辺りについては地域の皆さまや、あるいは大学の知恵など色々あるので、少し連携していただき、その指標自身をつくっていくくらいの話をしていってもよいかも思えない。そうしたものがいくつかのところにあると思うが、取りあえずこれを測れば何とかなるというものだけにこだわらず、ここはもう少し長い視点で検討してはどうか。少し大幅なお願いになってしまいますが、まずはロジックモデルをつくり、現在、考えている見立てがどのようなところにあるか、また、そこに対して何を調べれば、その見立てが正しいか、違っているかが判断できるようになるのか、その辺りのロジックのようなものがこの中に表れるように、もう少し工夫してはどうか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 貴重なご意見であり、もう少し検討していきたい。</li> </ul>
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 103 ページの自主防災組織の組織率は、そもそもどのようにして計算しているのか。また、最初の参考資料の説明で、他にも検討されており、特に※の、駅周辺の歩行者数や、誘導施設の徒歩圏カバー率、公共交通の機能分担率は、いろいろ考えてみただけでも数字を出すことが難しいと判断し、取り込めなかったとのことであった。しかし、この三つは非常に大事な指標である。駅周辺の歩行者数は、にぎわいを測るために非常に大事なデータであるし、そこが5年後、10年後、15年後にどう変わっていくのかということは、この計画だけで左右されるものではないが、もう少し幅広くカバーできる指標があるのではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自主防災組織の組織率の算出方法については、防災担当部局が算出しており、町内会、自治体などの団体を分母とし、その中で防災マニュアルを作成した団体の数を分子として、その率を算出している。</li> </ul>
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自主防災組織の組織率というと、市内の町内会、自治会でどれだけの自主防災組織ができていくかというイメージで捉えましたが、そうではなく、自主防災組織が既にあり、その中で、かつマニュアルを整備した所がどれだけあるかということであれば分かった。そうだとしたら、これが適切かどうかは少し疑問である。</li> </ul>
多々納委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 活動している所がこれだけあるということなら、割と良いほうだと思う。その意味では、普通の組織率に比べれば、良いものを使おうとしているのではないかと。ただし、避難しなければならぬときに避難する場所を知っていますかという質問を仮にしたときに、きちんと答えられる人たちがどれくらいいるか、また、そもそもどのようなときに避難しなければならぬかと思っているかなども、違ってくるかもしれない。</li> </ul>

	<p>それから、自分がある程度、年を取ってくると、それができると思っ ていても、実際はできないかもしれない。そう考えたときに、本当に 避難できる人の比率や、あるいは、避難した人たちがきちんとその後 で適切に生き残っていけるか、これが最近気になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 生き残るといふ言い方は少しエキセントリックですが、日本の場合、 災害関連死のほうが、災害死よりも多いことがある。それは結局、避 難した後に、きちんとそこで生活ができなかったためであることが多 いので、その辺りのことを、今後の社会では考えなければならない。</li> <li>• 安心・安全に生きていくためには、そうした比率がどうなっているか、 どのようにケアされているかというデータが必要。従って、それが達 成できている人口の割合を、実際は測ったほうがよい。</li> <li>• すぐに測れる指標はこれだと言えるかといわれるとそうは言えない が、そうではなく、調べていくものがあるのもよい。その中で、例え ば今の時代なので、市民の皆さまの協力をお願いする、あるいは、さ まざまな大学や協議会があるので一緒に取り組んでみるなど、いつも そうしていれば、継続的に指標が手に入る。大規模に全員で行うこと は大変ですが、そうではなく、サンプルを取ってみるなどということ を設計すれば、恐らく20年くらいは続けられると思う。そのような ことを少し考えてはどうか。</li> <li>• 少しアンビシャスでも、そうした仕組みを入れ込み、もう少しこのプ ランを市民の皆さまの手中に持っていけるようにしなければ、恐ら く空回りすると思います。そのようなことを、ここから提言してもら えればよいのではないかと。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• この指標を考えるに当たっては、行政の悪いところとして、いったん 計画を作った後、継続的に確認できないということがよくあるので、 継続的に算出、計測ができるものという点にスポットを当てた。この プランを評価するに当たり、その値が適切なのかどうかという点に関 して、少し問題が出ている。</li> <li>• 自主防災組織に関しても、避難が困難な方の情報はかなりシビアなど ころもあり、なかなか公表されない。そうしたところも含め、指標と して設定できるものは再度、庁内で調整しあらためて提案したい。</li> </ul>
多々納委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 個人的には、ここだけでワークショップをしてさまざまな議論をして もよいくらいのテーマだと思っている。ここが恐らく、マスタープラン から全てを込みにして最大の肝だと思うので、すぐに終わらせず、 じっくり構えて考えてほしい。</li> </ul>
大庭委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 指標に関して様々な検討していることは十分分かる。しかし、実際5 年後などに、例えばこの指標を使ってどのように評価をするのかとい う状況を想定したときに、果たして本当に評価ができるのかという点 が疑問。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>私は公共交通の委員をしているので、公共交通では 103 ページ、104 ページで指標が二つ記載されている。例えば、公共交通利用圏カバー率は約 9 割となっており、恐らくその後もずっとほぼ 9 割だと思う。実際に現状値を測り、その 5 年後も 9 割だとして、果たしてそれで、維持できているからよしとするのかどうか疑問。</li> <li>通常、公共交通の議論の場では、カバー率より運転手の担い手不足、要は、減便などのサービス低下が問題になっています。そう考えるとカバー率ではなく、本数は減っているのか、増えているのか、そうしたところを捉えなければ、市民の公共交通の利便性が維持されているかどうかは、捉えられないのではないかと思います。従って、カバー率が果たして適しているのかは疑問。</li> <li>それから、市内の鉄道駅の乗降客数に関して先ほどの意見にもあったように、例えば乗降客が一定あったとしても、特に若い客が来てほしい、あるいは観光客に来てほしい、外国人に来てほしいという気持ちがあるとするなら、その構成をしっかりと捉えておく必要があります。そうしなければ、この計画の 5 年後あるいは 20 年後に、本当に評価できないのではないかと。</li> <li>その意味では、他の指標に関しても、5 年あるいは 20 年で本当に評価できる指標になっているのかということ、いま一度、確認する必要があります。そこでは、先ほど多々納先生の言ったように、ロジカル、ロジックも大事。一方で、事務局が先ほど説明していたように、入手可能、要は利用しやすい指標であるということも、併せて大事。ただし、例えば 20 年たったらしっかりと評価してみるなど、評価のレベルを変え、この計画が進捗できているかどうかを考えるというのも一つの手ではないでしょうか。その辺りも併せて検討してはどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政として、実際にデータが取れるかどうかという点に主眼を置き過ぎたと考えている。また、実際にロジックを整理せずに載せてしまっている部分もあると思う。期間もある中で、どこまで整理ができるかは検討したいが、一定、積み上げによって目標値と現状値があり、その辺りについては検討したい。</li> </ul>
大庭副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>102 ページに、滞在人口率という評価指標が示されているが、平日 14 時の滞在人口は、それほど簡単に取れるデータなのか。定義を確認したい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞在人口率について、分母の夜間人口は、直近の国勢調査の数字を用いて比率を毎年、計算しているので、計算法として算出できるのではないかと思います。</li> </ul>
大庭副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間人口は分かるが、14 時の滞在人口は簡単にデータが取れるのか。恐らくスマートフォン等で GPS の情報を集計するなど、何か新しいデータを購入しなければならないのではないかと。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>別部署で把握しており詳細について確認する。</li> </ul>
大庭副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>もしかしたら部署によってはそうしたデータをずっと持っていて、それを活用しているのかもしれない。恐らくスマートフォンのGPSの情報を集計するのではないかと思うが、一定のスマートフォンの機種しか集計されない。外国人の方々や子どものことが、このまちづくり方針の、多様な暮らしに対応できるまちづくりとされているので、子育て世代などの観点から指標を設定しているのだと思います。しかし、果たしてそれが、そうした人たちの状況を捉えられているかどうかという点も併せて確認したほうがよい。</li> </ul>
川池会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>他にいかがですか。私も、滞在人口率をどのようにして出しているのかという疑問がありました。これは、宇治市内の企業で仕事をしている人だけを対象にしているわけではないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞在人口率は、おっしゃったように仕事をしている方や、観光客も含めたものだと思う。</li> </ul>
川池会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かりました。プランの中では、職住近接を強調しているように思うので、宇治市が目指す方向として、仕事の場所も宇治市でということを目指しているのか、あるいは、働く場所は京都市内や大阪方面だけれども、住むのは宇治ということを目指しているのか、滞在人口率という点に関連して疑問を感じた。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇治市としては、まずは人口を増やすということが大きな目標としてある。具体的な施策の中にも、産業の立地の取り組みなどをすることで職住近接の環境をつくり、大きくは人口を増やしていきたいという思いがある。実際は減少傾向にありますが、その率をできるだけ少なくしたいということ、基本的な考えとして持っている。その上で、屋間に、例えば観光客や仕事で来る人をさらに増やしていきたい。</li> <li>宇治市の場合は、ベッドタウンで発展してきたまちではありますが、働く場所も多くあります。そのため、会長のご指摘のとおり職住近接で、宇治市で住み、宇治市で働いてもらう、子育てをしてもらう、そのような魅力あるまちを目指そうということで取り組んでいる。併せて、観光客も多く取り込み、それらを含めて滞在人口率として考えている。</li> </ul>
川池会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの委員から指摘があったので、評価指標については事務局で再度検討したい。最初の居住誘導区域の人口密度の目標値は、令和24年あたりを目標として書かれていますが、その他の指標に関しては令和6年、令和7年、つまり来年、再来年とされており、少し近いのではないかと思う。このプランに沿って行動した結果が出るよりも前の段階なので、見方によっては現状値のようになるのではないか。もう少し先の年度であってもよいのでは。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値については、上位計画である総合計画の目標値にあわせたいと</li> </ul>

	<p>いう狙いがある。実際は、そのチェックの年度に合わせているということもあるが、全ては、最終的にどのようなロジックで、どう評価していくのかということと、その目標年次の考え方の整理をする必要があると思う。その整理をする中で、例えば、実際は現状のまま置いておいたほうがよいのか、それとももう少し長期で見たほうがよいのかということについても検討し、再度、会長と相談したい。</p>
川池会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>他に意見はないか。</li> </ul>
	《意見特に無し》
川池会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>この『評価指標と目標値及び評価方法について』に関し、委員の皆さまから多くの意見をいただき、再度、検討するべき課題、宿題もかなり出てきたかと思えます。今後の対応について事務局から説明を。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>概要版のこれまでの検討と今後のスケジュールにも示しているとおり、本日いただいた意見を踏まえて内容の修正等をし、パブリックコメントや公聴会等による住民意見の聴取に入っていきたいと考えている。素案でいただいた意見については、修正をして完成と思っているが、評価指標のところについては考え方の整理が必要であり、再検討して会長と相談し、必要に応じて皆さまにも情報提供をして、意見をいただきながらまとめていきたいと考えている。</li> <li>市民の方々にこれまでPRしてきたことと、これから考えていくことについてもお知らせするつもりです。これまで議論していただいた内容については、お手元に配布してもらっている市政だよりやニュースレターなどで、プランの内容についてお知らせしています。</li> <li>また、11月11日の土曜日に、京都大学の宇治おうばくプラザのきはだホールで開催される、防災シンポジウムの啓発ブースでのパネル展示を予定しており、その後、パブリックコメント等、意見の聴取の結果も踏まえ、先ほどいただいた内容については整理した上で、プランの内容を次回、最終の第6回の委員会にて確認していただければと考えています。その後は、本年度中に都市計画審議会の意見聴取を行い、プランを策定していく予定です。</li> <li>評価指標のところについては少し整理に時間を要しますが、整理した上で委員長とも調整し、必要に応じて皆さまにも説明をした上で、本年度中の策定を目指したい。</li> </ul>
川池会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>了解した。他に意見等はないか。</li> </ul>
	《意見特に無し》